

教室3 情報発信プロジェクト「絵と文字で伝える地域のストーリーづくり」 第5回レポート

教室3は、地域の文化や面白いネタを集めてかるたを作っています。

第5回目は、かるたの最終チェックと活用方法について検討しました。

◎サンプル品ができました！

みんなで描いた取り札は、講師の手により地域ごとに配色され、サンプル品が完成しました。ひとつずつ読み札と取り札を確認していきます。

干物やお遍路さんなど、絵が被っている取り札もいくつかありますが、読み札や解説を見ると切り口や表現が違って、それぞれに良さがあります。「被ってる絵はお手付きのトラップになっていいね」との意見も。

また、中には非現実的な絵もありますが、フィールドワークで見たもの・感じたことが豊かな発想で表現された絵です。「味があってえい」「引き込まれる」「もっと知りたくなる」といった意見が出されました。

「この内容でいいの?」「非現実的じゃない?」という意見はもちろん大切ですが、それぞれの想いや発想を尊重することも大切です。このかるたにはいろんな人のいろんな想いが詰まっていて、見るだけで笑顔になり会話が生まれると思います。

早くたくさんの人に見てもらいたいですね。



◎模擬かるた大会をやってみよう！

内容をチェックした後は、御畳瀬にあるコミュニティスペース「みなや」に移動し、実際にかるた大会をやってみました。畳というのが雰囲気出て良いですね。

受講生たち、取るの早過ぎる！被り絵トランプにもまったく引っかかりません。制作者なので当然ですね。

札を読み終える前に取ってしまうので、みなやのスタッフさんからは「最後まで聞かせて～」という声か。



「自分の絵だけは絶対取る！」と意気込み、全身全霊で飛び込む受講生もいましたが、畳の上だとケガをしないので安心です。

みなやからは、「大人のかるた大会をしたい！」という意見をいただきました。大人も子どもも盛り上がるのがかるたの良さです。ぜひ実現したいですね。

◎かるたのPRと地域活性について考える

教室に戻ると、かるたの活用アイデアを話し合いました。出た意見は、講師の高橋さんが絵と文字でまとめていきます。グラフィックレコーディングという手法です。

小中学校に配布して地域学習に繋げる、聖地巡礼のように絵札の場所を巡るイベントを開催する、白紙を入れてオリジナルかるたを追加してもらう、インスタグラムなどSNSで発信してたくさんの人に知ってもらう、などたくさんの意見が出ました。

また、ある受講生から、11月22日の高知新聞にかるたの制作を通じた地域での郷土教育の記事が出ていたという情報提供がありました。みんなで取り組んできたかるた制作が、間違いなく地域活性に繋がっている！と自信を持ったようでした。



◎かるたをPRしよう

さて、次回はいよいよ最終回、成果物の発表です。

今日の残り時間もわずかになってきたところで、講師から「かるた以外の成果物として広報物を作りませんか？」と声掛けがありました。話し合いの結果、模造紙を使って大きな地図を作り、それにかるたを貼ることに。

地図を作る人、地図に貼るかるたを切る人、それぞれが役割を分担して取り組みます。「ぼくができることは何かない？」と積極的に声をかけると、「じゃあこれやって！頼んだで〜」と作業を任せられます。これまで一緒にやってきた受講生達、もうすっかり打ち解け、信頼関係も生まれていますね。



次回は、いよいよ成果発表です。

残された準備時間は1時間のみ。

はたして地図は完成するのでしょうか？

そして、どんな発表になるのでしょうか？

乞うご期待！！